

2026年度以降入学生用 常磐大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

建学の精神	実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。
教育理念	自立・創造・真摯
研究科の教育研究上の目的	(1)専攻分野について自立した研究者として研究活動を推進し、その成果をもって学術および文化の振興に寄与できる研究者および教育者を養成する。 (2)専門的な職務に従事するために必要な研究能力および専門的知識を身につけて、社会の各分野で活動して社会一般の福祉の増進に寄与できる専門的職業人を養成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	
本研究科修士課程のディプロマ・ポリシーに明示した資質・能力を身につけ、学修成果を実現するために、以下の方針に基づき教育課程を編成します。 1. 編成方針 生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、被害者学、といった周辺諸科学の英知を集め、複眼的に人間理解に努めることができるように共通科目と2つの領域でカリキュラムを編成します。		1年次		2年次		本研究科は、人間科学の専攻分野について、学術、文化の振興に寄与できる研究者、および高度な知識を身につけて社会の福祉の増進に寄与できる専門的職業人を育成します。本研究科における学修および研究を通じて次に示す資質・能力を身につけ、学位論文の審査および最終試験に合格した人に、修士(人間科学)の学位を授与します。	
		春セメスター	秋セメスター	春セメスター	秋セメスター		
(2) 実 施 方 針	(1)共通科目「人間科学の方法論研究」等では、学際的な人間科学を大学院で学ぶために必要となる、基礎知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。	人間科学の方法論研究 人間科学文献研究Ⅰ	人間科学合同演習 人間科学研究法基礎 人間科学文献研究Ⅱ	人間科学合同特別演習		1.人間科学の幅広い視点にたって人間を理解し、人間に関わる諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動できる。	
	(2)第一領域「人間科学」では、人間の発達と適応、人間と社会・コミュニケーションについて、心理学、教育学、社会学を中心とした人間科学の視点から探究できるような科目を配置し、教育を行います。	生命科学特論 生命科学演習 心理学特論Ⅰ 心理学特論Ⅱ 心理学特論Ⅲ 心理学特論Ⅳ 教育学特論Ⅰ 教育学特論Ⅱ 教育学演習Ⅰ 教育学演習Ⅱ 社会学特論 現代社会学特論Ⅰ 現代社会学特論Ⅱ 被害者学特論 産業・労働社会学特論 産業・労働社会学演習 コミュニケーション論特論 コミュニケーション学特論Ⅰ コミュニケーション学特論Ⅱ マス・コミュニケーション論特論	心理学演習Ⅰ 心理学演習Ⅱ 教育学特論Ⅲ 教育学特論Ⅳ 社会学演習Ⅰ 社会学演習Ⅱ コミュニケーション論演習 マス・コミュニケーション論演習				
	(3)第二領域「臨床心理学」では、社会の中で生きる個としての人間が抱えるさまざまな心の問題に対して、研究に基づく心理臨床を実践できる臨床心理士、および公認心理師を養成するため、臨床心理士および公認心理師受験資格取得に必要な教育を行います。	臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践) 臨床心理査定演習(心理的アセスメントに関する理論と実践) 臨床心理学研究法特論 臨床人格心理学特論 臨床家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) 臨床精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開B) 心理療法特論 公衆衛生科学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開A) 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 臨床心理学演習 ケース・マネジメント実習Ⅰ(心理実践実習) ケース・カンファレンス特論Ⅰ	臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理面接特論Ⅱ 臨床心理査定特別演習 障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開) 臨床発達心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開) 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 心の健康教育に関する理論と実践 ケース・マネジメント実習Ⅱ(心理実践実習) 臨床心理基礎実習 ケース・カンファレンス特論Ⅱ	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習) 臨床心理実習Ⅱ		2.人間科学の各分野においてリーダーシップを発揮して、人間社会の文化と福利に貢献することができる。	
	(4)共通科目の「修士論文研究」「修士論文特別研究」では、各学生の設定したテーマを探究するための教育を行います。	修士論文研究	修士論文研究	修士論文特別研究	修士論文特別研究		

→

→

→

→

修士の学位授与

常磐大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)			<SDGsの17のゴールとの関連> 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさを守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
共通	人間科学の方法論研究	演習	2	1	○			人間科学の研究領域は非常に広く、研究方法も多種多様である。 この授業では、教員がオムニバス形式により自身の研究領域を中心として、人間科学を構成している各領域の研究の方法論を紹介する。これを通じて人間科学のさまざまな研究方法論(理論的背景に基づく)を院生が俯瞰的に把握し、各自の修士論文研究を進めるうえで参考となる視点と研究方法に出会う機会を提供することを目的としている。	(1)人間科学の研究で用いられる研究方法論を理解し、修士論文作成の際にどのような研究方法を用いることができるかを考えることができる。 (2)学生は各自の修士論文において、なぜその研究方法を採用するのか、その理論的背景と妥当性を問うことができる。	◎		
	人間科学研究法基礎論	演習	2	1	○			人間科学研究における代表的研究手法と研究倫理について、理解を深めることを目的に、授業を行う。具体的には、人間の科学のための方法論についての、代表的テキストを輪読し、その内容についてディスカッションする形式ですすめる。	(1)人間科学の研究法について、系統だった知識がある。 (2)研究を進めるうえで必要となる倫理的事項を理解している。 (3)修士論文で採用する予定の研究法について、その特性を説明することができる。	○		
	人間科学合同演習	演習	1	1	○			授業は学生による研究発表と質疑討論の形式で行われる。修士論文のテーマとその意義、及び用いる研究方法と、アプローチを明確にし、それを全領域の教員と学生に対して、わかりやすくプレゼンテーションができるようになるため指導を行う。研究を進めるうえで必要となる、研究倫理上の手続きについても指導を行う。	(1)研究テーマとその意義について説明し、多角的・多面的な視点で議論することができる。 (2)研究倫理として必要となる手続きをすることができる。	◎		
	人間科学合同特別演習	演習	1	2	○			授業は学生による研究発表と質疑討論の形式で行われる。修士論文の研究課題(リサーチクエッション)と先行研究の水準を明確にし、それを全領域の教員と学生に対して、わかりやすくプレゼンテーションができるようになるため指導を行う。	(1)研究課題と先行研究について説明し、多角的・多面的な視点で議論することができる。 (2)研究発表のスキルを高めることができる。	●		
	人間科学文献研究Ⅰ	演習	2	1・2	○			受講者の研究関心・テーマに即して、人間科学関連の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1)当該分野の和文・英語論文著書を正確に読むことができる。	○		
	人間科学文献研究Ⅱ	演習	2	1・2	○			受講者の研究関心・テーマに即して、人間科学関連の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1)当該分野の和文・英語論文著書に基づいて議論することができる。	○		
	修士論文研究	演習	4	1	○	○		修士論文作成のための基礎的な知識と方法について理解を深め、修士論文のテーマの確定を進める。	(1)修士論文作成のための基礎的知識と技能を取得し、修士論文のテーマを設定できる。 (2)自分の研究に必要な調査、実験などを適切に選択することができる。	◎		
	修士論文特別研究	演習	4	2	○	○		修士論文のテーマに即して、先行研究の水準を確定し修士論文の研究を進め、修士論文を完成できるように指導する。	(1)収集した情報を適切に分析し、研究を計画的に進めることができる。 (2)研究計画に基づく研究成果を、修士論文として完成させることができる。	●		
	生命科学特論	講義	2	1・2	○			21世紀の生命科学の発展に対応すべく、様々な観点から「人間とは何か」について学ぶ。生命科学の発展は、遺伝子に関する理解が深まったことに起因するが、生命現象を理解するためにはマクロ(生態系)からミクロ(分子)まで、幅広い知識が必要となる。最新の生命科学の知見を広く学び、バランスのとれたものの見方を養うとともに、受講者の研究の参考とすることを目標とする。	(1)ヒトを含む哺乳類における行動や心の進化と発達、および遺伝子の構造と機能について理解し、説明することができる。	○		
	生命科学演習	演習	2	1・2	○			生命科学に関する最新の論文を熟読し、発表、議論をする。これらを通じて当該分野の現状を把握し、研究の背景や着想に至った経緯、具体的な研究手法についても学ぶ。	(1)生命科学の諸問題がいかに解決されてきたかを理解し、それらについて議論することができる。	○		
	心理学特論Ⅰ	講義	2	1・2	○			心理学の特定の分野の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1)心理学の特定の分野における最新の研究を理解し、説明することができる。	○		

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

第Ⅰ領域	授業科目の区分		授業科目名	授業の形態	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)				学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)
																1. 人間科学の幅広い視点にたって人間を理解し、人間に関わる諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動できる。
																2. 人間科学の各分野においてリーダーシップを発揮して、人間社会の文化と福利に貢献することができる。
																＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①: 貧困をなくそう ②: 飢餓をゼロに ③: すべての人に健康と福祉を ④: 質の高い教育をみんなに ⑤: ジェンダー平等を実現しよう ⑥: 安全な水とトイレを世界中に ⑦: エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧: 働きがいも経済成長も ⑨: 産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩: 人や国の不平等をなくそう ⑪: 住み続けられるまちづくりを ⑫: つくる責任つかう責任 ⑬: 気候変動に具体的な対策を ⑭: 海の豊かさを守ろう ⑮: 陸の豊かさを守ろう ⑯: 平和と公正をすべての人に ⑰: パートナリーシップで目標を達成しよう
	心理学特論Ⅱ		講義		2	1・2		○			心理学の特定の分野の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 心理学の特定の分野における最新の研究を理解し、説明することができる。	○			
	心理学特論Ⅲ		講義		2	1・2		○			心理学の特定の分野の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 心理学の特定の分野における最新の研究を理解し、説明することができる。	○			
	心理学特論Ⅳ		講義		2	1・2		○			心理学の特定の分野の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 心理学の特定の分野における最新の研究を理解し、説明することができる。	○			
	心理学演習Ⅰ		演習		2	1・2		○			受講者の研究関心・テーマに即して、心理学の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1) 各自の研究テーマと関連のある心理学の特定の分野について、幅広く文献をレビューし、論理的かつ具体的に説明することができる。 (2) 研究計画の立案、的確な解析手法の選択など、研究を行う上で必要な方法論を理解することができる。	○			
	心理学演習Ⅱ		演習		2	1・2		○			受講者の研究関心・テーマに即して、心理学および関連する分野の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1) 各自の研究テーマと関連のある心理学の特定の分野について、幅広く文献をレビューし、論理的かつ具体的に説明することができる。 (2) 研究計画の立案、的確な解析手法の選択など、研究を行う上で必要な方法論を理解することができる。	○			
	教育学特論Ⅰ		講義		2	1・2		○			人間科学としての教育学の代表的なアプローチを整理するとともに、「教育」を対象とする最新の研究動向について検討する。	(1) 人間科学としての教育学の代表的なアプローチについて、自身の研究関心へ結び付けて理解することができる。 (2) 「教育」を対象とする最新の研究動向について、自身の研究関心へ結び付けて批判的に検証することができる。	○			
	教育学特論Ⅱ		講義		2	1・2		○			一つの教科をとりあげ、その教科における教科教育学研究史とその形成の基盤になった海外の教科教育学研究について取り上げ、適宜、受講者による討論を取り入れる。	(1) 特定の教科における教科教育学研究史の展開を説明することができる。	○			
	教育学特論Ⅲ		講義		2	1・2		○			教育方法学の基礎理論をとりあげ、教授と学習の基本的問題とその解決策について具体的事例に即して解説する。適宜、受講者による討論や発表を取り入れる。	(1) 教育方法学の理念と基礎理論について、具体的事例に即して説明することができる。	○			
	教育学特論Ⅳ		講義		2	1・2		○			一つの教科をとりあげ、その教科における現代の教科教育学の最先端の主要テーマの研究動向とその知見を取り上げ、適宜、受講者による討論を取り入れる。	(1) 特定の教科における現代の教科教育学の各分野の最新動向と基本的知見について説明することができる。	○			
	教育学演習Ⅰ		演習		2	1・2		○			教育のあり方をめぐる国際的な議論を取り上げ、その議論が日本の教育政策・教育実践にどのような影響を及ぼすのか検討する。	(1) 教育のあり方をめぐる国際的な議論が日本の教育政策・教育実践にどのような影響を及ぼすのか、論理的かつ具体的に説明することができる。 (2) 教育のあり方をめぐる国際的な議論が日本の教育政策・教育実践に及ぼす影響について、自身の研究関心へ結び付けて批判的に検証することができる。	○			
	教育学演習Ⅱ		演習		2	1・2		○			受講者の研究関心・テーマに即して、教科教育学関連の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1) 教育学の和文・英語論文著書を正確に読むための留意点を理解することができる。 (2) 授業で取り扱う資料について、教科教育学研究の位置づけを理解することができる。	○			

常磐大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

授業科目の区分										学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
	授業科目名	授業の形態	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 人間科学の幅広い視点にたって人間を理解し、人間に関わる諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動できる。	2. 人間科学の各分野においてリーダーシップを発揮して、人間社会の文化と福利に貢献することができる。	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①: 貧困をなくそう ②: 飢餓をゼロに ③: すべての人に健康と福祉を ④: 質の高い教育をみんなに ⑤: ジェンダー平等を実現しよう ⑥: 安全な水とトイレを世界中に ⑦: エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧: 働きがいも経済成長も ⑨: 産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩: 人や国の不平等をなくそう ⑪: 住み続けられるまちづくりを ⑫: つくる責任つかう責任 ⑬: 気候変動に具体的な対策を ⑭: 海の豊かさを守ろう ⑮: 陸の豊かさを守ろう ⑯: 平和と公正をすべての人に ⑰: パートナリーシップで目標を達成しよう
人間科学	社会学特論	講義		2	1・2	○			この授業では、授業担当者が専門とする特定の水準から、社会学の基礎的テーマである人間と社会について、最新の議論を検討する。	(1)授業で扱った観点から、社会的存在としての人間について、理解している。 (2)授業で扱った観点から、人間が作り出す社会の諸特徴について、最新の研究動向についての知識がある。	◎		
	現代社会学特講Ⅰ	講義		2	1・2	○			現代社会に関する社会学研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1)社会学に関する最新の研究動向についての知識を身につけている。 (2)専門書および論文で用いられている研究の方法論を理解することができる。	○		
	現代社会学特講Ⅱ	講義		2	1・2	○			この授業では現代社会で発生している社会事象に焦点を当て、社会学とそれに関連する分野の研究動向に関する知識と理解を深めることを目的とする。	(1)授業で扱ったテーマに関する知識がある。 (2)授業で扱ったテーマに関するこれまでの研究の進展や、今後の研究動向に関して自ら問いを構築することができる。	○		
	被害者学特論	講義		2	1・2	○			この授業では、犯罪被害者に関する事項について取上げ、とりわけ犯罪被害の現状及び犯罪被害者の支援に関する知識と理解を深めることを目標とする。	(1)犯罪被害者に関する知識を身につけている。 (2)授業で扱ったことを基本として、犯罪被害者に対する支援について自ら提言することができる。	○		
	社会学演習Ⅰ	演習		2	1・2	○			受講者の研究関心・テーマに即して、社会学の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1)社会学の和文・英語論文著書を正確に読むための留意点を理解することができる。 (2)授業で取り扱う資料について、社会学研究における位置づけを理解することができる。	○		
	社会学演習Ⅱ	演習		2	1・2	○			受講者の研究関心・テーマに即して、社会学および関連する分野の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1)授業で取り扱う分野の和文・英語論文著書を正確に読むための留意点を理解することができる。 (2)授業で取り扱う和文・英語論文著書に基づいて議論することができる。	○		
	産業・労働社会学特論	講義		2	1・2	○			産業・労働社会学における最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1)産業・労働社会学に関する最新の研究動向についての知識を身につけている。 (2)組織の基本構造とその変動について、理解することができる。	○		
	産業・労働社会学演習	演習		2	1・2	○			受講生の研究テーマに産業・労働社会学的な観点からどのようにアプローチできるかを主眼として、内容を組み立てる。それにより、受講生の修士課程での研究と深化と広がりを現実のものとする。	(1)産業・労働社会学的な観点から企業経営におけるヒトに関わる問題を理解し、それを論文作成の基礎とすることができる。	○		
	コミュニケーション論特論	講義		2	1・2	○			人間科学の幅広い視点にたって人間を理解するため、社会学、言語学、コミュニケーション理論などの観点からコミュニケーション学の成立の歴史について学ぶ。	(1)コミュニケーションに関する諸理論を専門的な見地から系統立てて説明することができる。 (2)それらを学んだのち自らの学問的立場を確立することができる。	○		
	コミュニケーション学特論Ⅰ	講義		2	1・2	○			本授業では、コミュニケーション学の特定領域の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。授業は、発表担当者がレジュメを作成して発表し、発表内容について受講生同士がディスカッションする形式で展開する。	(1)コミュニケーション学に関する最新の研究動向についての知識を身につけている。 (2)専門書および論文で用いられている研究の方法論を理解することができる。 (3)論文を独力で読み、内容を理解することができる。	○		
	コミュニケーション学特論Ⅱ	講義		2	1・2	○			本授業では、コミュニケーション学の研究動向に関する知識と理解を深めることを目的とする。授業は、参考書籍の中から各自が章を選んでレジュメを作成して発表し、発表内容について受講生同士がディスカッションする形式で行う。	(1)授業で扱ったテーマに関する知識がある。 (2)授業で扱ったテーマに関するこれまでの研究の進展や、今後の研究動向に関して自ら問いを構築することができる。	○		

常磐大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

授業科目の区分	授業科目名	授業科目の区分	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 人間科学の幅広い視点にたって人間を理解し、人間に関わる諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動できる。	2. 人間科学の各分野においてリーダーシップを発揮して、人間社会の文化と福利に貢献することができる。	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさを守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
	コミュニケーション論演習	演習	2	1・2		○		人間科学の幅広い視点にたって人間を理解するため、社会における様々なコミュニケーションの類型に関する基礎的研究について学ぶ。	(1) 人間科学の専攻分野で創造的な学術的知見を見いだすため、コミュニケーションの概念、コミュニケーションの諸類型に関する理論を具体例を示しつつ説明することができる。 (2) 自立した研究者として社会一般の福祉の向上に貢献することができる。	○		③
	マス・コミュニケーション論特論	講義	2	1・2		○		人間科学の幅広い視点にたって人間を理解するため、メディア・コミュニケーションの過程、構造、機能、効果に係わる研究(特に社会学的、社会心理学的見地に基づく)について学ぶ。教員が指定するテキストを読んでいることを前提とし、疑問に答えるというかたちでの講義を展開することにした。	(1) 人間科学の専攻分野で創造的な学術的知見を見いだすため、メディア・コミュニケーションに関する諸理論を専門的な見地から説明することができる。 (2) 先行研究の内容を理解するだけでなく、具体例を用いて分かりやすく(日本語で)説明することができる。 (3) 先行研究の内容を理解するだけでなく、それらを系統立てて学んだのち、自らの学問的立場を確立することができる。 (4) 大量の英文を読むことで、文献を読むコツもを修得することができる。	○		
	マス・コミュニケーション論演習	演習	2	1・2		○		人間科学の幅広い視点にたって人間を理解するため、マス・メディアが、コミュニケーションに与える影響に関するについて検討する。教員が指定するテキストを読んでいることを前提とした授業である。疑問に答えるというかたちでの講義を展開することにした。	(1) 人間科学の専攻分野で創造的な学術的知見を見いだすため、コミュニケーションの概念、マス・コミュニケーションの効果に関する理論を具体例を示しつつ説明することができる。 (2) 近年登場したメディアの影響をコミュニケーション論の視点から系統立てて説明することができる。 (3) コミュニケーション理論だけでなく、統計学の知識があることが前提となり、自立した研究者として社会一般の福祉の向上に貢献することができる。 (4) 大量の英文を読むことで、文献を読むコツを修得することができる。	○		③⑨
	臨床心理学特論Ⅰ	講義	2	1・2		○		高度な専門性と倫理観とを兼ね備えた専門職業人としての臨床心理士になるための基礎を養うことを目的に、臨床心理学の基礎理論、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助技法、臨床心理学的地域援助技法などについての概略を学ぶ。 臨床心理士の職域は広い。それぞれの現場にはどのようなクライアントが来談するのだろうか、そしてどのような心理検査が使われ、どのような心理療法が行われているのだろうか。クライアントをとりまく地域に対して臨床心理士には何ができるのだろうか。他職種との専門家とのかわり合いはどのようなになっているのだろうか。臨床心理士に問われる倫理とは何だろうか。こうしたことを学生に伝え、そして共に考えていきたい。	(1) 臨床心理士の活動領域、及び心理検査、心理療法を含めての、そこでの具体的な活動等について理解し、説明することができる。		◎	
	臨床心理学特論Ⅱ	講義	2	1・2		○		高度な専門性と倫理観とを兼ね備えた専門職業人としての臨床心理士になるための基礎を養うことを目的に、臨床心理学の基礎理論、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助技法、臨床心理学的地域援助技法などについての概略を学ぶ。 臨床心理士の職域は広い。それぞれの現場にはどのようなクライアントが来談するのだろうか、そしてどのような心理検査が使われ、どのような心理療法が行われているのだろうか。クライアントをとりまく地域に対して臨床心理士には何ができるのだろうか。他職種との専門家とのかわり合いはどのようなになっているのだろうか。そこで問われる倫理とは何だろうか。こうしたことを学生に伝え、そして共に考えていきたい。	(1) 臨床心理士の活動領域、及び心理検査、心理療法を含めての、そこでの具体的な活動等について理解し、説明することができる。		◎	③
	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	講義	2	1・2		○		さまざまな悩みをかかえて来談する者の相談に応じ、その心理に関する助言、指導その他の援助を行うためには、心理支援に関するさまざまな理論、方法等を習得する必要がある。この授業では力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法について学ぶ。	(1) フロイトやユングなどの力動論を理解し、説明することができる。 (2) 論理療法や行動分析などの認知・行動論を理解し、説明することができる。 (3) 芸術療法や交流分析などその他の理論について理解、説明することができる。 (4) 心理に関する相談、助言、指導等へ上記の理論を応用することができる。 (5) 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて、適切な支援方法を選択・調整することができる。		◎	
	臨床心理面接特論Ⅱ	講義	2	1・2		○		臨床面接特論Ⅰで習得した力動論に基づく心理療法、行動論・認知論に基づく心理療法、その他の心理療法の、心理に関する相談、助言、指導等への応用の仕方について学ぶ。心理に関する支援を要する者の特性に応じた適切な支援方法の選択について学ぶ。	(1) 力動論、認知行動論などのさまざまな理論がどのような来談者に適用可能なか理解し、説明することができる。		◎	
	臨床心理査定演習 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	演習	2	1・2		○		臨床心理査定は、心理臨床の土台であり骨格である。クライアントとの面談の中で語られる内容や絶え間ない観察を通して見立てや方針を定めることができる場合もあれば、必要に応じて心理検査を施行し、そこから得られる情報を統合して査定を行うこともある。本演習では、臨床現場で使用頻度の高い心理検査を取り上げ、背景理論や方法論、実際の施行法を解説する。受講生には、各自で心理検査を実施した結果をレポートにまとめて提出することを求める。	(1) 各種心理検査の、その基にある理論を理解することができる。 (2) 各種心理検査を実際に実施し、その結果について解釈するための基礎的な技術を身につける。 (3) 公認心理士の実践における心理アセスメント意義について説明できる。 (4) 心理に関する相談、助言、指導等へ心理アセスメントを応用することができる。		◎	
	臨床心理査定特別演習	演習	2	1・2		○		臨床心理査定は、心理臨床の土台であり骨格である。クライアントとの面談の中で語られる内容や絶え間ない観察を通して見立てや方針を定めることができる場合もあれば、必要に応じて心理検査を施行し、そこから得られる情報を統合して査定を行うこともある。本演習では、「臨床心理査定演習」や「ケース・カンファレンス特論Ⅰ」で身につけた知識を応用的に活用できるようにするため、検査依頼者やクライアントに報告することを想定し、それぞれのニーズに対応した報告書を作成するところまでを学習する。文献発表の際には、文献中に使われている各種心理検査の実施方法・結果のまとめ方・解釈仮説等を含めて説明できるように準備することを求める。	(1) 関係する文献(研究論文・事例研究)を「調べる力」と「読む力」を身につける。 (2) 支援を要する対象者とその関係者のニーズに対応した報告とはいかにあるべきか「考える力」と「表現する力」を身につける。		◎	③
	臨床心理基礎実習	実習	2	1		○		公認心理師・臨床心理士として必要な心理臨床に関する基礎的臨床知識やスキルを下記プログラムに沿って習得します。実習では、担当教員が交代・共同で行う講義や文献輪読、実践技法等に関するグループワークやディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを通じて学びます。	(1) 臨床心理の専門的職業人に必要な基本的態度や倫理感覚が身につける。 (2) 臨床心理の専門的職業人に必要な各種技法に関する基本的知識・技能、記録のまとめ方、評価の方法などの基本知識・技能を習得する。		◎	
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	実習	2	2		○		本実習科目は、学内の心理臨床センターにおける実習と学外施設における実習の2つから構成される。 学内の心理臨床センターでの実習は1年生から始まる。①面接場面の観察、②受理面接の陪席、これらを経た後に、③実際にケースを担当する。ケースを担当した学生は、教員によるスーパービジョンを受け、ケース・カンファレンスにおいて報告する。 学外施設での実習は原則として2年生から始まる。実習期間、実習日時は本学と各実習施設が協議して決められる。実習後は学内で報告会を行う。	(1) 実習の場で要請される心理検査を実施する技術と能力、心理療法を実施することができる技術と能力を身につける。 (2) 公認心理師が働く機関を理解し、そこでチームの一員として働くことができる職業人としての能力を身につける。 (3) 自分が行った実践活動を振り返り、評価し、新しい展望が持てる実践家でありかつ研究者でもあるという態度を身につける。 (4) 学内実習と学外実習での学びを公認心理師としてどう捉えたら良いのか、理解し、説明することができる。		●	③

常磐大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	単位数・必修	単位選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 人間科学の幅広い視点にたって人間を理解し、人間に関わる諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動できる。	2. 人間科学の各分野においてリーダーシップを発揮して、人間社会の文化と福利に貢献することができる。	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさを守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
第Ⅱ領域 臨床心理学	臨床心理実習Ⅱ	実習		2	2	○		本実習科目は、学内の心理臨床センターにおける実習と学外施設における実習の2つから構成される。学内の心理臨床センターでの実習は1年生から始まる。①面接場面の観察、②受面接の陪席、これらを経た後に、③実際にケースを担当する。ケースを担当した学生は、教員によるスーパービジョンを受け、ケース・カンファレンスにおいて報告する。学外施設での実習は原則として2年生から始まる。実習期間、実習日時は本学と各実習施設が協議して決められる。実習後は学内で報告会を行う。	(1) 実習の場で要請される心理検査を実施する技術と能力、心理療法を実施することができる技術と能力を身につける。 (2) 公認心理師が働く機関を理解し、そこでチームの一員として働くことができる職業人としての能力を身につける。 (3) 自分が行った実践活動を振り返り、評価し、新しい展望が持てる実践家でありかつ研究者でもあるという態度が身につける。 (4) 学内実習と学外実習での学びを公認心理師としてどう捉えたら良いのか、理解し、説明することができる。		●	③
	臨床心理学研究法特論	講義		2	1・2	○		本講義は臨床研究を実施し、心理臨床を実践できる臨床心理士を養成するため、臨床心理学研究法では、臨床研究で用いられる、量的研究・質的研究法を概観しその特徴を学びます。各学生の研究テーマに必要とされる研究法とデータ分析の実践的題材を元に授業を進めます。	(1) 臨床心理学研究で重要な位置を占める質的研究法の特徴を理解することができる。 (2) 臨床研究の倫理的配慮を理解することができる。 (3) 研究法に関する専門用語、概念を理解することができる。		◎	
	臨床心理学演習	演習		2	1・2	○		近年、臨床心理学とそのアプローチ方法は、多種多様な領域で役立つことが期待されています。本講義は社会の中で生きる個としての人間が抱える様々な心の問題に対する臨床実践を、大きく「家族」「子ども」「社会との関わり」の3分野に分けて、総括的に伝えます。講義形式ですが、提供した情報を基に、ディスカッションやディベート等のアクティブ・ラーニングによって内容をより自身の問題として引きつけて理解することを重視します。	(1) 幅広い視点で、人間を理解しようとすることができる。 (2) 社会の福祉の増進に寄与できる専門的職業人としての知識を身につける。		◎	③
	臨床人格心理学特論	講義		2	1・2	○		日常生活の営みにおいて、個人のパーソナリティが果たす役割は大きい。生得的な要因に限らず、生後の生育環境によるパーソナリティへの影響も無視できず、さらにはパーソナリティが精神病理に関連することも明らかとなっている。本講義前半ではパーソナリティに関する概論に始まり、アメリカ精神医学会による診断基準に記載されている10のパーソナリティ症について、構造化面接の視点から学ぶ。講義後半では各種パーソナリティ症の社会場面での臨床像と心理支援者としての対応原則について学ぶ。	(1) パーソナリティについて理解し、多様なパーソナリティ症について説明することができる。 (2) 構造化面接法について理解し、その実施方法について説明することができる。 (3) パーソナリティ症者の社会生活場面における困難について理解している。 (4) パーソナリティ症者の心理支援者としての対応原則について説明することができる。		○	
	臨床発達心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	講義		2	1・2	○		発達にはさまざまな側面がある。例えば新版ICF発達検査では姿勢・運動領域、認知・適応領域、言語・社会領域の3領域の発達をみる。認知・適応領域には微細運動の発達、視覚的記憶の発達、描画行動の発達などが含まれる。言語・社会領域には社会性の発達、聴覚的記憶の発達、の言語理解の発達、言語表出の発達、数の理解の発達などが含まれる。本授業では数多くある発達理論の中でも認知と社会性、そして母子関係に焦点をあてて学んでもらう。	(1) 心理発達面に課題をかかえて来談する者に対して、その相談に応じ、助言、指導等をするうえで、知っておくべき発達理論について理解し、説明することができる。 (2) 公認心理師としての教育分野に関する理論を理解し、支援を展開することができる。 (3) 教育分野に関わる公認心理師の実践について理解し、説明することができる。 (4) 教育分野に関わる公認心理師の実践について理解し、説明することができる。		◎	
	臨床家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	講義		2	1・2	○		現代社会の状況を念頭に置きながら、家族心理学の課題とその解決法について解説する。また、家族を取り巻く集団や地域社会における心理支援に関する理論と実践についても解説する。個人実習やグループワークも取り入れながら体験的に理解を深める。後半では各受講生の興味関心を絡めて、研究論文を講読し、レジュメやパワーポイントにより発表を課す。	(1) 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法を説明することができる。 (2) 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を説明することができる。 (3) 心理に関する相談、助言、指導等への上記2点の応用について理解することができる。		◎	
	公衆衛生科学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開A)	講義		2	1・2	○		公衆衛生(public health)とは、「地域社会の組織的な取り組みを通じて、疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進するための科学(science)と技術(art)である」と定義されている。公衆衛生の対象は一個人ではなく集団である。この授業では、公衆衛生の理念・技術について学び、人々の健康づくりに果たす公衆衛生活動について理解することを目標とする。具体的には、母子保健、学校保健、成人・老年保健、感染症を含む環境保健、国際保健、さらに生活習慣病について理解することを目標とする。	(1) 公衆衛生の概念・疫学の方法・環境保健・国際保健などについて理解し、各々について説明することができる。 (2) 疫学研究と倫理について、特に医学に関連する研究推進時に倫理性を確保するために理解することができる。 (3) 公衆衛生や疫学は感染症対策として発展してきた。感染症における病原性の種類としての感染源、感染経路、宿主の要因を中心に予防対策を含めて理解することができる。		○	③
	臨床精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開B)	講義		2	1・2	○		保険医療分野に関わる公認心理士の実践について精神医学との関連を学ぶ。	(1) 主要な精神疾患の理解と精神科医療のシステムについて理解することができる。		◎	
	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	講義		2	1・2	○		障害者(児)への具体的な支援の方法について学ぶことが主な目的となる。支援の方法は発達期によって異なる。幼児期の支援の方法と学童期の支援の方法は同じではない。障害者(児)の将来を予測しながら支援の方法は展開されていかななくてはいけない。そしてもう一つ重要なことがある。それは支援が臨床心理職だけでできるものではないということである。子どもがよりよく発達していくためには医師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士など、多くの専門職種の方々と協働していかななくてはいけない。どのように協働していけばよいのか、そのことについてもこの授業で学んでいってもらいたい。	(1) 障害名とその内容、障害者への臨床心理学的支援方法(心理検査を含む)について理解し説明することができる。 (2) 公認心理師としての福祉分野に関する理論を理解し、支援を展開することができる。 (3) 福祉分野に関わる公認心理師の役割について説明することができる。		◎	③
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義		2	1・2	○		産業・労働場面で実際に起こりうる様々な問題に対応できる知識と実践力を身につける。一方的な授業だけでなく、ディスカッションや必要に応じてロールプレイも実施する。またwith/afterコロナ時代において急速に広まったオンラインカウンセリングについてもロールプレイを通して留意点や円滑な実施のためのポイントも押さえていく予定である。	(1) 産業・労働分野の基礎知識について理解することが出来る。 (2) 産業・労働分野での実践および展開力を養うことが出来る。		○	
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義		2	1・2	○		公認心理師・臨床心理士として稼働するために必要となる司法・犯罪分野の基礎知識と支援実務の概要を学ぶ。非行・犯罪や家事事件の動向、基盤となる原因論・処遇理論、各種制度の根拠となる法制度、加害者の再犯防止や立ち直り支援、被害者の回復支援に必要とされる実務場面におけるアセスメントや効果的な介入技法などを刑事司法過程ごとに系統的に学修することにより、将来、本分野に関わる際に心理職として有効な働きかけが可能となるよう基礎的コンピテンスを養う。	(1) 司法・犯罪領域で必要とされる基本知識を理解し、具体的な臨床事例に即して説明できる。 (2) 効果的な支援につながるアセスメントや介入の基本的枠組みを検討することができる。		○	

常磐大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春 セメ	秋 セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 人間科学の幅広い視点にたって人間を理解し、人間に関わる諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動できる。	2. 人間科学の各分野においてリーダーシップを発揮して、人間社会の文化と福利に貢献することができる。	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさを守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
	心の健康教育に関する理論と実践	講義	2		1・2		○		公認心理師法に定められた公認心理師の4つ行為、つまりアセスメント、心理支援、関係者支援、心の健康教育のうちの前三者は心理支援を要する者と関係者へのサービスである。それに対して心の健康教育はすべての国民を対象とする。それゆえに心の健康教育が求められる分野は、保健医療、学校教育、福祉、産業、災害など多岐にわたる。本講義では心の健康教育のあり方についてまず学び、心の健康教育の理論と実践について分野別に学び、最後に心の健康教育を進めていく上で必要となる工夫やアイデアなどについて学ぶ。併せて公認心理師の必要性や専門性を社会に説明する力も養っていきたい。	(1) 心の健康教育に関する理論を説明することができる。 (2) 心の健康教育に関する実践することができる。		◎	③
	心理療法特論	講義	2		1・2		○		本講義は個としての人間が抱える様々な心の問題に対する、エビデンスのある臨床心理学的支援である認知行動療法(CBT)を学びます。CBTは、医療・教育分野で広く用いられ、健康な人には、ストレス管理に役立つセルフケアツールとなります。この授業では、認知行動療法の基本モデルを学び、基本的スキルをロールプレイを通して体験学習する。基本的スキルにはリラクゼーション法、認知再構成法、問題解決法が含まれます。一回の標準的な授業は、発表、講義、ロールプレイ、振り返りのセットとします。	(1) 日常の身近なストレス状況を、CBTの基本モデルに基づいて人間が理解することができる。 (2) 臨床心理領域の枠組みにおいて、CBTに必要なアセスメントと心理教育について理解することができる。 (3) CBTの認知再構成法と問題解決法の手順を習得することができる。		◎	
	ケース・カンファレンス特論Ⅰ	講義	2		1・2		○		学生は陪席した面接、担当したケースについての詳細な記録を作成し、担当教員から個別的スーパーヴィジョンを受ける(ケース・マネジメントを参照)。その後、陪席した面接ケース、担当したケースについて、ケース・カンファレンスで報告する。ケース・カンファレンスにはすべての学生、教員が参加し、報告されたケースについて討論する。ケース・カンファレンスに参加することで、ケースの見立てと介入方法の多様性について理解できる。	(1) 教員は皆、よってたつ理論が異なる。そうした教員が一同に会するカンファレンスで自分のかかわったケースを報告することで(あるいはその報告を聴くことで)、学生はケースの見立てと介入方法の多様性について理解することができる。		◎	
	ケース・カンファレンス特論Ⅱ	講義	2		1・2		○		学生は陪席した面接、担当したケースについての詳細な記録を作成し、担当教員から個別的スーパーヴィジョンを受ける(ケース・マネジメントを参照)。その後、陪席した面接ケース、担当したケースについて、ケース・カンファレンスで報告する。ケース・カンファレンスにはすべての学生、教員が参加し、報告されたケースについて討論する。ケース・カンファレンスに参加することで、ケースの見立てと介入方法の多様性について理解できる。	(1) 教員は皆、よってたつ理論が異なる。そうした教員が一同に会するカンファレンスで自分のかかわったケースを報告することで(あるいはその報告を聴くことで)、学生はケースの見立てと介入方法の多様性について理解することができる。		◎	
	ケース・マネジメント実習Ⅰ(心理実践実習)	実習	2		1・2		○		ケースを担当する学生が、教員から、個別にスーパーヴィジョンを受ける。そのために、学生は詳細なケース記録を作成し、スーパーヴァイザーに報告する。ケースによっては介入場面をビデオで撮影し、それをスーパーヴァイザーに見てもらふ必要がある。 ①ケースの見立てがきちんとなされているかどうか、心理検査を実施した場合にはその解釈が妥当かどうか、これがまず問われる。次に②見立てに基づいて選択した介入方法が理にかなったものであるかどうか、③しかもその介入は適切に行われているのかが問われる。	(1) ケースを見立て、それに基づいて、そのケースに相応しい介入方法を選択し、それを適切に実行に移すことができる。そしてその結果を自分でチェックすることができる。しかもこれらの過程をきちんと言語化することができる。 (2) 学内実習と学外実習での学びを公認心理師としてどう捉えたら良いのか、理解し、説明することができる。		◎	
	ケース・マネジメント実習Ⅱ(心理実践実習)	実習	2		1・2		○		ケースを担当する学生が、教員から、個別にスーパーヴィジョンを受ける。そのために、学生は詳細なケース記録を作成し、スーパーヴァイザーに報告する。ケースによっては介入場面をビデオで撮影し、それをスーパーヴァイザーに見てもらふ必要がある。 ①ケースの見立てがきちんとなされているかどうか、心理検査を実施した場合にはその解釈が妥当かどうか、これがまず問われる。次に②見立てに基づいて選択した介入方法が理にかなったものであるかどうか、③しかもその介入は適切に行われているのかが問われる。	(1) ケースを見立て、それに基づいて、そのケースに相応しい介入方法を選択し、それを適切に実行に移すことができる。そしてその結果を自分でチェックすることができる。しかもこれらの過程をきちんと言語化することができる。 (2) 学内実習と学外実習での学びを公認心理師としてどう捉えたら良いのか、理解し、説明することができる。		◎	